

編集発行:とやま農場 〒080-2106 北海道帯広市美栄町西6線128 携帯 090-1648-2100

ハチドリのひとしずくを

庭のおんこの実をついばむ美しいカケスが見られる季節を向かえました。いつも農場の産物をご愛食頂いている皆さま、お変わりございませんか？お陰さまで、今秋も大地の恵みをお届けすることができました。今年の産物はいかがでしょう？ 皆さまからのご感想などお待ちしております。

さて、3.11の東日本大震災から早くも7ヶ月が過ぎましたが、被災地での復興も思うように進まず、特に福島原発にあっては、食糧生産を生業とし、宮城をふるさとに持つ私にとっても胸が締め付けられる思いがします。そんな目の離せない状況の中、今年は特に南米アンデス地方の先住民に伝わるお話“ハチドリのひとしずく”が事あるごとに思い出されました。燃えている森から逃げ回る動物たちの中、1羽のハチドリだけは、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。「そんなことをしていったい何になるんだ」といって笑う動物たちに「私は私にできることをしているだけ」と答えるお話です。また、マザーテレサは、「私たちのすることは、大海の一滴の水に過ぎないかもしれませんが、でも、その一滴の水が集まって大海となるのです」と話されたそうです。

足元の暮らしを改めつつ、ひとしずくを重ねるものでありたいと思います。寒さに向かいます。皆さま、どうぞ、ご自愛下さい。

外山聖子

家族のよこがみ

聖子 52歳

夕食後に行っている新聞での情報収集。気がつけば、いつの間にかこっくりこっくり。。。徹夜もきかなくなり、「う～ん、いつまでも若くはいられない」を痛感。居眠りはしつつも活字を追う生活は、ことさらに大切になりそうです。

隆祥 25歳

オリジナル作業着を作る十勝リアルウェアプロジェクトのツナギ「AGRISTA」がいよいよ完成しました。人生初のファッションショーにも参加。

剛士 23歳 札幌市 (札幌東急イン 調理師)

宴会調理からレストラン担当に移動し、次のステップを踏み始めました。休日には、バイクで釣りやドライブを楽しんでいます。

佳裕 21歳 岩手県 (岩手大学応用生物科学課程4年)

卒論研究にいそむ毎日。テーマは「D-アミノ酸の代謝に関する酵素の精製と諸性質の解明」…???

晶浩 19歳 (特定非営利活動法人PARCIC)

人生初のヒッチハイクでは日本の大きさを実感。石巻から伊豆まで12人のドライバーさんにお世話になりました。

徳男 81歳

京子 76歳

とれたてのはちみつに舌鼓！

農場の菜種生産の取組みを知って頂く体験イベント「はちみつ」を6月18日に開催しました。十勝養蜂園(上土幌町)の齊藤氏と菜種油・BDFの製油を行っているエコERCの為廣氏を講師に迎え、蜜蜂が飛び交う蜂箱を前に蜂蜜の採取や試食に加え、菜種油の搾油実演も行われました。

養蜂の世界に振れ、とれたての蜂蜜を食べられるとても貴重な体験とあって、帯広はもとより札幌などからも約40名の皆さまが参加してくださいました。昼食の調理は、主に調理師でもある剛士が担当し、ミート&ポテト、かぼちゃの冷製スープ、菜種油ドレッシングの採れたてサラダ、アスパラのムース等をお召し上がり頂きました。

今回はパワーポイントを活用し、農場の取組みなどをより解り易く紹介できるように工夫しました。今後もお客様の声を基により良いイベントを目指します。尚、このイベントの様子は、北海道アルバイト情報社が運営するサイト「いいね！農style」にも掲載される予定です。



とれたての蜂蜜を堪能。



昼食後のひと言メッセージ

晶浩のブログ「外山少年の事件簿」始めました

今春、高校卒業後から被災地石巻にてボランティア活動をしていた晶浩ですが、同じく復興支援活動を行っているNGOパルシックの依頼を受け6月よりスタッフとして働いています。(10月末まで)被災地での生活を通して、現地での多くの方々との出逢いやふれあい、若者の葛藤?を織り交ぜながら、赤裸々に綴っています。11月中旬からは、愛媛のみかん農家に行く予定です。是非、機会がありましたらブログをチェックしてみてください!

外山少年の事件簿URL toyama-shonen.blogspot.com



ブログのトップページは
フジTVアナウンサー皆藤愛子さんと



7月5・6日 基督教独立学園高校



9月5日 帯広調理師専門学校



9月12・13日 大阪府茨木高校



9月27・28日 大阪府刀根山高校



10月11・12日 大阪府布施高校

農場のできごと

今年、晶浩の母校である基督教独立学園高等学校(山形県)の修学旅行の受入を始め、帯広調理師専門学校・日本キリスト教団 北海教区”収穫感謝の集い”・十勝管内の農漁村で取り組んでいる大阪府の修学旅行生のファームイン受け入れなど、たくさんのお客様や関係企業様がとやま農場を訪ねてくださいました。

特に基督教独立学園高等学校の生徒27名+先生2名は、今までの受入人数を大幅に更新する大所帯で、寝袋持参で住宅やゲストルームなどに所狭しと宿泊して頂きました。農作業(ビートの除草作業)に始まり、夕食後には聖子の話(農業と教育&食育)や聖書の拝読、所感など生徒自身が考えたプログラムに従って、進められました。お別れの際には、皆さんによる“感謝の気持ち”として美しいコーラスを聞かせて頂きました。

農作業の合間をぬっての受け入れとあり、充分な態勢とは言えませんが、命の糧である食べ物の生産現場や農業を生業とする私たちの暮らしを体感してもらえる大切な機会となっています。わずかの時間や1泊では、私たちの想いや取り組みを伝えることは難しくもありますが、このような機会を提供できるのも農家・農村の特権であり役割でもあると思います。今後も機会があれば継続して受入を行いたいと思っています。

また、次男剛士はバイク購入を機に帰省する機会も増え、農場で収穫された作物を使ったメニューの考案や調理&加工なども手がけ積極的に協力してくれました。お陰でおふくろの味とは一味違った食卓を囲むことができました。

早朝から慣れない農作業にチャレンジしてくださった高校生の皆さまそして、遠路の所訪ねてくださった皆さま大変お世話になりありがとうございました。機会がありましたら是非、また訪ねていただければ幸いです。

編集後記

就農3年目になりました。今年は今までに経験したことのない災害にも見舞われ苦戦しました。そんな中でも、「隆祥の畑、生育良かったね!」と近所の方に自分の名前でも農作業の成果を語られたり、(その逆もあります…)色々な新しい出会いもありました。

自分が生産した農産物を指名して買っていただけたり、メーカーさんとの新しいお取引が生まれ、農場の名前が入った新商品が世の中に出回る。認めてくださる方がいてくれる事。

自然相手の農業なので、悔しい思いをする事も多々あります。そんなときに農業者としてお金以上の「やりがい」を見出し始めた1年でした。